

## 平成22年度第4回松山地域協議会会議録

日 時 平成23年2月3日(木) 午後2時～午後3時50分

場 所 松嶺コミュニティセンター 集会室

出席委員 14名

1号委員 齋藤 勝 佐藤 ゆき子 佐藤 旭 今田 充代 阿部 茂  
新館壽美子 遠田 聡 小田 和夫 遠藤 俊三 佐々木 亨  
佐藤 修

2号委員 土田 迪子

3号委員 佐藤 洋子 木村 美津枝

欠席委員 1名

1号委員 長堀 俊一

酒田市出席者

松山総合支所長 太田 豊 地域振興課長 秋葉 弘毅

建設産業課長 難波 富也 市民福祉課長 久松 正一

地域振興課補佐 後藤 晃 地域振興課調整主任 石川 春市 同 丸藤 真也

傍聴者 3名

議事日程

1 開 会

2 あいさつ

3 会議録署名委員の選出

4 協 議

(1) 松山地域ビジョンについて

(2) その他

5 そ の 他

6 閉 会

【議 事】

1 開 会・・・地域振興課長

2 あいさつ

【地域協議会会長】

例年になく大雪の中で、ご出席くださりましてありがとうございます。除雪に関しましては市を挙げて取り組んでいるようですが、交通に支障もでてきており、なかなか効果が上がってない状況となっております。尚一層の対応をお願いして挨拶とします。

### 3 議事録署名委員の選出

地域振興課長 申し合わせ事項により、今回は遠藤俊三委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委 員 異議なし。

### 4 協 議

#### (1) 松山地域ビジョンについて

地域振興課長が資料に基づき説明を行う。

#### 【説明概要】

地域ビジョンの基本的考え方、今後の進め方についてご説明します。地域ビジョンについては酒田市総合計画を踏まえて、地域の特色や資源を活かした地域振興を図るため、酒田市総合計画と同様に平成 29 年度を目標年度として、地域の将来の姿、それを実現するための施策等をまとめるもので、酒田市総合計画の地域版にあたるものです。予定としては、今年の7月頃の完成を目指しております。内容は過疎地域自立促進計画に盛られた事業、今後検討とされた事業を含め、旧町時代からの継続事業、懸案事項、今後皆さんと話し合いをしていく地域の独自性、特色を活かしたまちづくりのための施策等を検討するものです。最終的には地域協議会で決定していただくこととなります。

#### 【協 議】

佐藤 (旭) 今回話し合うのは計画の立て方なのか、スケジュールなのか。何を話し合う委員のか。

松山総合支所長 地域ビジョンについては、地域協議会で議論して決定していただくことになるので、今回は、今後の策定にあたっての進め方、スケジュール、手法等について御意見をいただきたい。話し合いとしては、地域の現状と課題、特色と資源等を材料に、各コミュニティ振興会を中心に各地域、各団体との意見交換を進めていきたい。それを踏まえて素案を策定し、それを基に、また地域の皆さんの意見を聞きながら進めていくという形になる。節目節目に地域協議会を開催し、皆さんの御意見を頂きたい。

齋藤 勝委員 先ほど各コミ振での話し合いをするとのことですが、日中でしょうか夜になるのでしょうか。

地域振興課長 基本的には日中を予定していますが、都合が悪ければ夜でも対応します。

齋藤 勝委員 自治会長制となりましたが、なかなか地域のことがわからないという話を聞いている。広報とかちらしでも不十分な気がする。今年の除雪についても、文書でのお願いであった。会議を開いて話をしてもらいたかったという意見もあった。自治会長の連合会も立ち上がったと聞いている。そのへんのところでも協議してもらいたい。

佐々木会長 私は自治会連合会の会長もしております。連合会と支所で除雪の会議を持ちたいという話がありました。連合会との日程があわなくて全員を集めての会議

は開くことができず、役員段階での話し合いとなり、文書でのお願いになってしまった。今年は不手際があったと思う。来年度については11月に全員を集めて話し合いを持つよう引き継いでおく。

松山総合  
支所長 今年は豪雪で、除雪が回りきれない状況である。1月24日に酒田市の豪雪対策本部が立ち上がった。支所においても対策本部を設置した。事前に雪害を防ぐ目的で、例えば高齢者の非課税世帯に対する屋根の雪降ろしの支援は従来は対象額の限度が2万8千円であったが、急きょ拡大して5万円に引き上げた。つまり、2分の1補助なので補助金を2万5千円まで引き上げた。こうした制度の拡充にあわせて、高齢者世帯の安全性の確保の面から各自治会長に対しては、職員が手分けをして制度の拡充のお知らせと地域の要望を聞いて回った。自治会長さん方から集まってもらうことも考えたが、緊急性もあり、個別に自治会長さんに話しをさせてもらった。高齢者世帯の方には民生委員をとおしたり、直接職員が訪問して話をしながら安全を確認している。

阿部 委員 資料の中の松山地域の強みの中に若干不安な部分がある。子どもの減少がいろいろな事業へ影響し、継続が危ぶまれているものが結構載っている。特に伝統芸能では各字町はそれぞれ問題を抱えている状況であり、すぐには解決できそうにはない。昨年酒田の団体が総光寺の庭園を見てがっかりして帰っていったという話を聞いた。いったい庭園はきちっと管理されているのかどうか、あれだけ名勝としての指定を受けながら、どこがどういうふうに管理しているのか、寺自体はどう考えているのか不安を感じざるを得ない。これがそのまま松山地域の強みとしてもっていけるのかどうか。また、盛んな文化・スポーツ活動と書いてあるが、本当に盛んなのかどうかは疑問である。むしろこれから盛んにするにはどうしたら良いのか考えるべきではないのか。子ども狂言は昨年は指導者が病気で休んでいたし、こどもたちからは会員が少なくなって練習ができなく出演はできないと断られた。今後の存在すら危ぶまれる状態になっている。豊かな食としての強みの中では、農産品がこれしかないのかと思うのがっかりする。米はいったいどうなるのだろうか。基幹作目の米の宣伝はなんとかならないものか。食事、おみやげについても、はたして人気を博しているのかどうか。以前は他の地域から松山にそばでも食べに行くかという噂を聞いたものだが、最近は何っきり聞かなくなった。現在はスキーに来たお客さんも昼食は現地で食べないで、下において食事をする人が多くいる。総合的に判断して、はたして人気を博しているかどうかは非常に心配な点である。今回具体的に松山地域の強みとして取り上げた項目を、ビジョンに組み入れるためには、もう少し内容を厳選する必要があると思う。

地域振興課長 阿部委員の指摘は、松山地域の強みは過去のもので、将来もこのまま強みとして残っていくことを前提として捉えられたと思いますが、今回の資料は松山地域の現況とこれまでに強みとして持っていたもの等を提供しているもので、今後、これらを土台にして、松山地域の将来をどう描くかを話し合っていくも

のです。いわば、今回の資料は話し合いのたたき台であり、これを基に皆さんと一緒に、ビジョンを策定していく予定です。

佐藤（旭） 委員 ビジョンを策定するという事は簡単ではないことは理解できる。この地域を将来どうするのかと考えると、なんと言っても大変なのは、人口減少の影響で、さまざまな行事や出来事が無くなったり、減少してきていることである。ビジョンの中では、人口が増えるような政策が最も重要であると思う。現況の中では企業誘致も難しいし、商店も減少している中では簡単に人を増やせるものではない。そういう観点から見れば、スキー場の整備や歴史公園の整備等も、はたして松山地域の人口増に繋がるかどうかは疑問である。酒田市の中で松山地域をどのような位置づけにすれば人口が増えていくのかが重要である。逆に高齢化を逆手にとった地域づくりも将来ビジョンの1つのテーマにしても良いのではないか。

松山総合 支所長 今後、地域に入って話し合いをする中では、地域の現状と地域の持つ特色は何なのかを素材にして御意見を頂きたいと考えている。今回は2つの資料を用意してもらったが、内容的には未だ練られていない初歩のものである。本日は今後の話し合いの方向性、テーマ等を検討してもらいたい。人口減少については、酒田市の総合計画の中でも、将来的に人口が増加することは考えていない。むしろ減少は避けられないものとして捉えており、いかに抑制するかに重点を置いている。松山地域においても、人口減少は不可避であると認識しており、いかにして減少を最小限に抑えていくかを考えている。大きな柱としては増え続ける高齢者がいかに安心して暮らせるまちづくりをしていくのか。もう1点は若い人たちが、いかにこの地に定住できるまちづくりにしていくかであると考えている。若い人が、この地に定住するためには雇用の確保ですが、この問題は酒田市全体での取り組みが必要であることから、ここでは松山地域から他の地域に通勤しながらも、いかにこの地に住み続けたいと思うようなまちづくりをするかを考えていかななくてはならない。そう思わせるものは、やはりこの地域の良さ、特色だと思う。それをどうやってつくっていくかが、今後の大きな議論となる。そういった観点から、今後地域の強みをどんどん出してもらい、良さを活かしたまちづくりを考えていきたい。

土田副会長 私は農業分野については素人で、産直に携わっている知人からの情報程度の知識しかありませんが、松山地域はほとんど農業地帯であり、良く整備された田畑がたくさんあると思います。そういった資源をもっとうまく活用できないものではないでしょうか。例えば、地元にある産直では、他の地域との交流を中心に活動しているようですが、農業も豊かな土地を利用して、松山地域に限らず幅広く広範囲に何かできないでしょうか。資料の中では農業の現状についてマイナスイメージが多く書いてありますが、良いこともあるので、そちらにも目を向けて取り組んでいけたらと思います。定年退職した方や全くの素人が、癒しを求めて農業に従事したいということもお聞きしますが、農業の振興に活かせる

いものでしょうか。松山地域は工業ではなく、農業で活気が出せないものかと思えます。

産業建設課長 農業には2つの面がある。観光・交流を含めた農業と、いわゆる生業としての農業です。生業としての農業はたいへんな時期を迎えている。一方、交流を含めた農業が生業として成り立つかどうかは難しい面がある。農家以外の方が農業を体験することは良いことだと思いますが、生業の農家から見れば、果たして生活していけるのかどうか疑問であるが、交流人口の増加という地域振興の面から見れば良い試みだと思う。生業の農家がどういう形で関わっていくかの動機付けや支援は行政の役割だと思う。

木村 委員 内郷地区に来て20年になりますが、そのときは周辺はほとんど農家でしたので、家業の寺の行事を頼むときは農繁期をはずして頼むようにしていた。

しかし、最近では農業は関係無くなったので、いつでも良いという返事をもたらしている。減反で空いた農地を貸してくれるというので、手がけてみたが、何を植えるにしてもひたすら草との戦いであった。地域内にもそういう土地が増えているような気がする。平田に貸農園があり見に行ったことがあります。みんなが、あんなふうにできるかといえば疑問である。ほとんど毎日取り組まないといけないと思う。片手間の素人にとっては、とにかく草取りが大変なことである。農家が年々減少していく状況で、農業を活かしての地域活性化は難しくなっていると思う。

佐藤（修） 委員 今は米価が下がっており、米単作ではやっていけない時代である。流行のように6次産業を奨励していますが、そう簡単にいくものではない。現況では農家の生き残りも先が見えず、自分の子どもにも農業を継げとは言えない。特産品にも取り組んでおりますが、代金の回収が大変である。また、景気が悪くなると消費者はますます買い控えするようになってきた。今はつや姫の評判が良いが、県知事はじめ、行政による宣伝効果も大きかったと思う。やはり、生産者とJAと行政が一緒となって取り組まないと事業はなかなか成功しない。しかし、全体的にみれば、少子化のうえに、米は食べなくなっているのに、米の消費量は減ってきている。産直にしても、今は団塊の世代がよく利用しているが、やがては利用できなくなる年になるし、若い年代とえば、材料を買ってきて料理をすることはしなくなってきているので、将来展望は明るくない。

小田 委員 地域ビジョンの策定は地域協議会でやるとの話ですが、過疎計画を立てる前にビジョンがあるべきでなかったのか。今後のビジョンの策定にあたっては、ある程度の年代ごとにグループ分けして意見を聞いたらどうか。たとえば、子育て世代、青壮年世代、退職世代等の3グループ位に分けてやったらどうか。協議会の話し合いでも、なかなか将来の姿が見えてこない状況では、やはり将来を担う世代から意見を聞くことが重要になると思う。商工業関係については、物を売るだけの店舗は生き残れない状態だし、加工技術を持っている人、例えば大工さん等は、里山という財産がありながら活かさきれていない状態であり、

プレハブ住宅に負けている。ものづくりの分野においては、ほとんど大手に取られている。商工会としても、青年部のOB等の話を聞くと、自分の商売に満足していない状況である。やはり、ビジョンには若い世代の感覚を取り入れていかないとだめだと思う。また、市の入札も電子入札に変わったように、社会全体の情報化が進み、事業の取り組みも変わってきている。いろいろな機会に事業を捉えるチャンスはあるが、電子化に追いついていない部分もある。市のホームページも見づらい部分がある。観光面や特産品についてはトップページに持ってきて、もっと宣伝すべきである。こういったソフト面もビジョンでは重要視すべきであり、ここにも若い人の感覚を取り入れていくべきである。

地域振興課長 地域ビジョンの策定は地域協議会も含めて、地域の各種団体、各世代から意見を求めて策定し、決定を地域協議会で行うことになる。

小田 委員 観光面からすれば、この地域には総光寺という名勝があるわけなので、今後とも活かしていくとなれば、こういった地域振興を協議する場に出席いただいて一緒に活用を図っていただければと思う

木村 委員 寺の立場からすれば、総光寺は国指定になったということで、庭園やきのこ杉の維持管理には補助金があると思いますが、実際は補助金では賄いきれない維持管理費を出費していると思う。不足分は寺個人で維持していくことになるが、寺個人では維持が大変であるので、護持会や檀家の人を頼ることになる。しかし、その人たちも年をとってきているので、年々難しくなっていくと思う。

新館 委員 松山は昔から焼き麩が有名だった。そういうものが、お土産としてないことが非常に不便である。1軒つくっているところがあり、そこから買っているが、とてもおいしい。是非、商工会でもがんばって、存続してもらいたい。

佐々木会長 地域ビジョンについては、他に意見が無いようなので終了します。その他でなにかありますか。

地域振興課長 ・デマンドタクシーの進捗状況の説明と学区改編についての現況を説明

産業建設課長 ・下水道料金の改定と除雪状況について説明

佐々木会長 ほかに無いようですので本日の協議は終了します。最後に副会長が協議会の終了を申し上げます。

土田副会長 今年は例年になく大雪で除雪に対する要望もありましたが、市も一生懸命対応しているようですので、お互いに譲り合いながら乗り切りたいと思います。地域ビジョンについても、様々な意見がでましたので、是非、取り上げてもらいたいと思います。それでは、これで第4回の松山地域協議会を終了します。